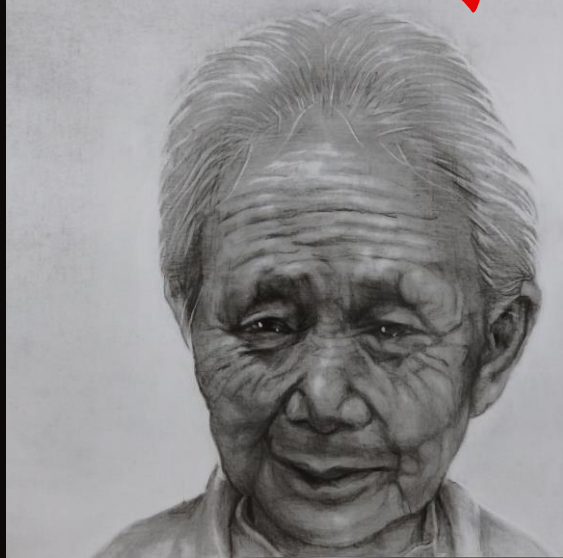


熊貓的故事

パンダのものがたり
+
はじめての旅



木下晋 絵本原画展

2016

十一月十六日(水)〜十二月十八日(日)

午前九時〜午後九時 観覧無料
休館日 月曜日、十一月二十四日

凝視の鉛筆画家・木下晋が一冊の絵本に描き出した中国四川省の野生のパンダは、日本人に刷り込まれたパンダの通俗的イメージをくつがえす。昨年春、中国の二十世紀出版社より刊行され大きな反響を呼んだ絵本『熊貓的故事』(文・唐亞明)と自らの少年時代を描いた絵本『はじめての旅』(福音館書店二〇一三年)の原画ほかを展示。

あの白黒の姿は、人間から見ると「かわいい」となるけれども、他の動物には恐怖の対象なんです。

ギャラリートーク

11月26日(土)

14:00~15:30

木下晋+唐亞明 (『熊貓的故事』執筆者)

聞き手 大倉宏 (砂丘館館長)

詳細は裏面

砂丘館

旧日本銀行新潟支店長役宅

熊貓的故事 パンダのものがたり+はじめての旅 木下晋 絵本原画展

2016 11/16(水)-12/18(日) 9:00-21:00
休館日 月曜日、11月24日 観覧無料

凝視の画家が描く絵本の世界

木下晋は凝視の画家だ。

替女(ごぜ)小林ハル、ハンセン氏病を負って生きた詩人桜井哲夫を描いた鉛筆画は「見ることのできない人間」をここまで見つめるのかという驚きを与えるとともに、この過剰な凝視が、そのような人々と向き合う彼の誠実な姿勢なのだと感じさせる。その木下さんから「パンダの絵本」を制作中と聞いたときは、「えっ」と声が出た。日中国交回復時に日本に送られたパンダが日本中に巻き起こした熱狂が記憶にある。あれ以降すっかり親まれたこの動物は、今では「かわいい」癒し系生き物の代表となった。なぜ、パンダを、木下さんが…？ 依頼が中国から舞い込んだときは、さしもの木下さんも当惑したという。しかし招聘されて行った四川省で、野生のパンダを見て、イメージは変わった。あの白黒でたれ目の姿は、パンダが厳しい自然界を生き延びるためにまとった威嚇の姿だったのだ。そして生まれた絵本『熊貓的故事』は野生動物としてのパンダを描く珍しい一冊になった。と言っても科学絵本ではない。絵本的ストーリーも作られている。しかしここでも画家の凝視は生きている。

凝視とは必要以上に見つめることで、目に張り付いた既存のイメージを破ることだ。パンダを語りだすと、熱くなってとまらない木下さんを見つめていると、世界は本当に未知で満ちているのだと感じる。それを見まいとして、私たちは手垢のついたイメージで目をおおっているだけなのだ。その木下さんが幼い頃、既知の場の外に母親の手で連れ出された体験を描いた絵本が『はじめての旅』。2冊の絵本原画と4メートルを越える鉛筆画の大作を展示する。砂丘館では2006年に開催した『ハルばあちゃんの手』原画展以来、10年ぶりの木下晋展になる。

大倉 宏 (砂丘館館長)



パンダって…あの白黒の姿は、人間から見ると「かわいい」となるけれども、他の動物には恐怖の対象なんです。先日、生命学者の中村桂子さんに対談したら、今、人間は地球の許容量の倍の人口があるそうなんです。だから、パンダを絶滅危惧種というけれども、本当は人間が絶滅危惧種なんだ。人間なんていつ減んでもいいような生きものだけど、パンダをかわいいと思うのは、大自然がパンダを通して人間にまだ減ぶなど言っているのではないかと、そんなことを考えているんですね。

木下晋・2013年12月丸木美術館での水沢勉との対談の発言(ブログ丸木美術館学芸員日誌より転載)



『熊貓的故事』2015年 二十世紀出版社(中国)



『はじめての旅』2013年 福音館書店

ギャラリートーク
11月26日(土) 14:00~15:30

木下晋+唐 亞明 (『熊貓的故事』執筆者)
聞き手 大倉 宏 (砂丘館館長)
参加料 500円 予約不要 直接会場へ

木下 晋 (きのしたすすむ)

- 1947 富山県富山市に生まれる
- 1963 自由美術協会展に最年少で初入選
- 1970 富山を離れ新潟に転居
- 1981 新潟県出湯温泉「石水亭」にて小林ハルに出会う
- 1983 小林ハルをモデルに制作開始
- 1999 東京大学工学部建築学科講師(’99~’08)
- 2001 武蔵野美術大学造形学部油絵科講師(’01~’08)
- 2003 新潟薬科大学講師(’03~’08)
- 2005 桜井哲夫をモデルに制作開始
- 2006 名古屋芸術大学特別客員教授
- 2009 金沢美術工芸大学大学院専任教授(’09~’14)
- 2013 武蔵野美術大学客員教授
紺綬褒章受章
- 2014 金沢美術工芸大学客員教授

おもな展覧会歴

- 1998 「木下晋展 - 祈りの譜」(町立久万美術館/愛媛)
- 2004 「六本木クロッシング展」(森美術館/東京)
- 2005 「木下晋展 - 剥ぎ取られた闇」(朝日美術館/長野)
- 2006 「木下晋展 - 浮かび上がる内面世界」(佐喜真美術館/沖縄)
- 2007 「ATTITUDE2007」(熊本市現代美術館/熊本)
- 2010 「木下晋展」(福岡市美術館/福岡)
- 2012 「木下晋展 祈りの心」(平塚市美術館/ほか)
- 2013 「木下晋展 - 生命の旅路」
(原爆の因丸木美術館/埼玉、沖縄県立博物館・美術館/沖縄)
- 2014 「木下晋絵本原画展」(田中一村記念美術館)

砂丘館

旧日本銀行新潟支店長役宅

〒951-8104 新潟市中央区西大畑町5218-1

tel./fax. 025-222-2676

sakyukan@bz03.plala.or.jp

指定管理者:新潟絵屋・新潟ビルサービス特定共同企業体



- 会場には駐車場がありません。また、周辺の道路は駐車禁止です。公共交通機関をご利用下さい。
- 新潟駅からのバス:浜浦町線 C2系統又は観光循環バス「西大畑坂上」バス停下車徒歩1分
 - 新潟市西堀地下駐車場をご利用の方は、駐車券掲示にて1時間分の無料券を差し上げます。

私たちは砂丘館の自主事業を
応援しています。

富岡あられ株式会社

NSGグループ

株式会社ナレッジライフ

新潟ビルサービス

丸屋本店

藤田金属

郷土の文化に親しむ会